

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

愛の郷 笠岡

日付

平成19年12月3日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員

在宅介護経験9年

評価調査員

ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「うちのホームは、利用者さん中心です」と明言するグループホームは多い。しかし、実際に入らせて貰うと、職員の色が濃く感じられる所も少なくない。だが、ここでは確かに両ユニットとも、利用者の思いが最優先と推察される事に多く出会った。その結果、一方のユニットでは一日の殆どの時間リビングルームで、食事作り等の家事やおしゃべり、手拍子も入った歌で皆でワイワイ活発に過ごす。それと対比的にもう一方のユニットの住人は食事や用事が終わったら自分の部屋でテレビを見たり趣味の事をして過ごす人が多い。もちろん、気が向いたら隣のユニットに食事作りの応援隊になるし、仲良しの部屋に入り込んでお喋りをする人もある。が、「ホームでの暮らしは、こうあらねばならない」といった職員の強い期待よりも、利用者一人ひとりの「自由・気まま・マイペース」が大切にされていて、これはすばらしい事だと思った。法人グループの代表者が、それぞれの施設の個性をとて尊重した姿勢で運営にあたっているからこそ、個々に特徴的な色合いが感じられるのではないだろうか。

さらにこのホームのすばらしい所は「介護する人」「される人」の関係が希薄な所である。職員とのやりとりの中で負けず劣らず言い返すAさんはアッカンベーをする。と、職員もすかさずアッカンベーをやり返して笑い合う。「もう、海へ飛び込んで死んでやる!」「ハイ、ハイ。ドーズ。でも、今はちょっと冷たいよ」等、私が我が家で実母とポンポン交わしているような会話がここでも飛び交っている。利用者同士でも遠慮が無さそうだし、職員とは「実の親子と思っている利用者も居るんですよ」である。双方が腹の内をさらけ出し合っているからこそ「見た目、喧嘩をしているようで、実は仲良し大家族」となっている。だから、だろう。入院した利用者の家族が「病院とここでは、母の顔が全然違う」と訴えたり「1年入院して寿命が延びるより、ここの1ヶ月の方が良い」とターミナルケアを強く希望するのは、

「認知症を患っているからといって、決して特別な人ではない。我が家のおじいちゃん・おばあちゃんとして、人間として、きちんと向き合っていこう」とする職員からのメッセージが多く伝えられた一日であった。

特に改善の余地があると思われる点

一人の人間として気取らず裸の付き合いをしていこうとするグループホームだからこそ、地域社会や家族の真の理解が大切になってくると思う。その為の工夫や努力の余地はまだあるのではないが、

家族への情報提供の幅も広げ、家族に、利用者を支えるよい協力者になってもらう為のチャンスや仕掛けをもっと工夫して欲しい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について… 理念に関する改善事項はないが、介護の基本の実行に関する項目の中で、職員全体で考えた「私達が目指していること」についてきちんと検証しようとしている。各項目の記述内容によっては、このホームの実情に照らし合わせて評価し難いこともあるが、信念を持って大切にしている理念の実現を継続していただきたい。</p> <p>2. 全体的に見て… 「同じ屋根の下で、共に笑い、共に泣き、時には言い合う事もあるが、一つの家族として自然体で付き合い合おう。息子や娘、孫になって、心の中に入り込んだ暮らしをしていこう」としながら、同時に「挨拶や礼儀も忘れてはならない。ゴミが落ちておればそっと拾う」といった影の仕事も大切にしよう」と努力しているホームである。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について… 特にこれといった改善項目は現在のところ見当たらないが、「できる事は可能な限り自分で」という大きな目標が常に前提にあるホームなので、例えば風呂の手摺だけ見ても次々と後付けされ、職員の思いがよく伝わってくる。「その人のその時」を見続けているからこそ、落ち着いた場づくりができているのだろう。</p> <p>2. 全体的に見て… 本音が言い合える空気が充満したホームになっている。「家族になっているなあ」と感じるが、嫁・姑の関係でなく、実の母・娘のようだ。遠慮なく職員に甘える様子は、場合によっては、「家族以上」になっているのかも知れないと思える程だ。また、立地や周辺の環境・ホームの建物や外周り、そして併設の小規模多機能ホームの協力も、ここの暮らしに寄与している事が多い。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について… 一人ひとりの尊重や利用者のペースの尊重については概ねできていると思ってもこれで良いと言えるだろうかと常に振り返り、利用者の立場に立って改めて考えてみる事は今後も必要な事ではないだろうか。</p> <p>2. 全体的に見て… このホームでは必要以上に手出しはせず、できる事は誉め、励ましながら自立支援をしている。「ほったらかし」との違いは見分け難いし、「ここぞ」という時の誘いかけ、声かけもなかなか難しいが、タイミングの良いアクションで、職員はその人の力を最大限に引き出そうとしている。ちょっと嫌がっても、もう一押しして、できたら笑い合う。これも我家の光景だ。一歩踏み込んだ親身な関わりは利用者にもしっかりと伝わっているようで、家族をも超えた信頼関係が見られるように思えた。こういった意味からも、とてもユニークなグループホームだろう。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について… 特に注目する改善点はないが、地域との交流は受け皿が多いという事もあって密接な関係は双方とも努力して保とうとしている。運営推進会議の頻度や幅も増やし、このホームの理念やケアの有り方をきちんと理解してもらえるならサービスの質も向上するだろうし、何か問題が発生した時も正しい理解が得られるだろう。</p> <p>2. 全体的に見て… 近隣の住人のボランティアや幼・小・中学生等、子供達との交わり、近所の人達との交流が多い事は、地域密着型のサービスの最も期待したい状況と思う。これに加えて、利用者との心の交流・深い絆はしっかり結ばれていると思われるので、後に残されている事は、家族の巻き込み方ではないだろうか。このホームに入居してから、嫁・姑の関係がとても良くなった話も聞いた。ここの暮らしで新しい家族関係が構築された証しかも知れない。この努力をさらに発展させていただきたい。</p>		